



寺本委員

「下水道等の整備の推進を図る」とありますが、本来下水道は、河川の範疇外という気もしますが、「BOD、COD以外の項目も視野に入れ、取り組んでいく必要がある」ということで窒素やリンを意識したことが書かれているのなら、高度処理みたいなこととかも書いてもいいかと思いました。

事務局

河川の範疇ではもちろんありませんが、前々から河川水質は流域で一緒にやっていかなければいけないということで、下水道とも連携をとりながらやっていきたいと思っています。窒素、リンを取っていくことになれば、高度処理とか様々な方策を考えなければいけないと思っています。

水質浄化や環境保全が必要と言われているが、水を汚しているのは我々自身であります。石田委員からありましたが、我々の普段の生活そのものが河川を汚している一つの原因になっていることについて書き込んでほしいと思いました。



松尾副委員長



辻委員

藤前干潟がラムサール登録されたことを、自然環境の良さを強調する意味で使用していますが、ラムサール条約のもともとの理念を考えれば、流域全体の生態系を大事にするということなので、河川の問題を扱うとしても河川だけでなく源流から伊勢湾の先までを視点に持つということが重要だと思います。伊勢湾のおかれている現状について、ぜひその辺を補強していただきたいと思います。

「流域圏」とは、流域だけでなく沿岸域を含むということを強調されていますので、「流域圏の生態系に寄与する河川環境の保全や再生」とし、それから、河川は都市域における貴重な自然空間であるという視点と河川がその流域や沿岸域を含む広域な場で、上から下までつながる重要な軸となっているという視点が河川の生態系保全に重要でありますので、そのような視点で記述を整理する必要があります。



辻本委員長



原田委員

流域内に住む人の流域の中の位置を捉えられていない、という話で、上流と下流の関わり、支川が本川に及ぼす影響といったものをみんながもっと認識する必要があるのなら、流域の仕組み、成り立ちといったものを、もう少し書いてもいいんじゃないかと思っています。できれば支川の流域分割まできちんと書いてもらって、全体としては庄内川流域なんだけれども、その中で自分はどこに住んでいるのかがわかるぐらい書いていただけるといいかと思っています。

次回の予定について

第7回流域委員会は、平成16年11月頃開催予定です。

「整備計画策定に向けて、課題の重み付けの検討」を議題とする予定です。

編集後記

回を重ねるたびに良い意味で固さがほぐれ、議事のそれぞれに対して様々な視点から活発な意見が出された。土岐川・庄内川の現状と課題については、これらの意見を踏まえて冊子にまとめ、公表される予定である。今後は、これを再度確認し、整備計画における重点課題ならびに優先順位を絞り込む作業へと進むことになる。一山越した感はあるが、まだ先は長い。計画策定へ向けて着実に歩みを続けたい。

(副委員長 松尾 直規)



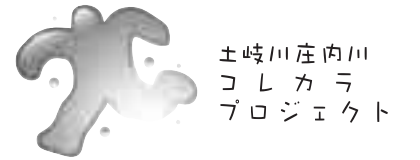
土岐川庄内川流域委員会通信

VOL.5

監修/土岐川庄内川流域委員会
発行/土岐川庄内川流域委員会事務局
国土交通省中部地方整備局 庄内川河川事務所
462-0052 名古屋市北区福徳町5-52 TEL 052-914-6711
フリーダイヤル 0120-4071-41

ホームページ ● <http://www.cbr.mlit.go.jp/shonai/>
メールアドレス ● shonai@cbr.mlit.go.jp

土岐川庄内川流域委員会通信



土岐川庄内川
コレカラ
プロジェクト

VOL.5

発行日：平成16年10月4日

土岐川庄内川流域委員会の議事内容と、関連情報をお知らせしていきます。

第6回 土岐川庄内川流域委員会が開催されました

開催日時

平成16年8月4日(水) 14:00~17:30

会場

名鉄ニューグランドホテル 7F 椿の間



第6回土岐川庄内川流域委員会審議内容

土岐川庄内川コレカラプロジェクトの実施状況について

自然環境ワーキンググループ、地域懇談会、行政連絡会議の実施状況について報告し、次のような意見を頂きました。

〔自然環境ワーキンググループ（WG）〕



辻本委員長

今回のWGの意見は各先生の意見という形で聞いていますので、これをどのようにこの流域委員会の課題の中に取り込むかというところで、議論させていただきたいと思っています。

自然環境ワーキンググループの概要

開催日時 平成16年6月17日(木) 17:30~19:30

会場 名古屋都市センター 14階 第1・2会議室

本WGは、流域委員会で土岐川庄内川の自然環境について議論、検討を行うことに際して、自然環境に関わる専門分野の学識者・有識者と意見交換を行う場として開催いたしました。

〔出席者〕

	分野	氏名	所属等
学有識者	魚介類	駒田 格知	名古屋女子大学 教授
	植物	芹澤 俊介	愛知教育大学 教授
流域委員会委員	水環境	八木 明彦	名古屋女子大学 教授
	○ 河川土砂水理学	辻本 哲郎	名古屋大学大学院 教授
	河川環境水理学	松尾 直規	中部大学 教授
	生態系鳥類	小笠原 昭夫	愛知女子短期大学 講師
公募委員	小菅 俊洋	(愛知県西枇杷島町在住)	
環境市民活動団体	辻 淳夫	藤前干潟を守る会 代表 ○：議長 ※敬称略	

〔主な意見〕

・上流部は別として、庄内川は、都市河川としては魚の生息状況から見ると非常にいい川である。

・基本的には都市河川としては非常にrippana河川であり、これから特に河口部と渓谷部分を大事にするとともに、中間部についてもヤナギ林を再生させて豊かな自然を取り戻していくというポテンシャルは十分にある。

・庄内川は、都市河川で限定すればきれいだいが、愛知県を流れる他の河川、矢作川よりはかなり汚い。窒素、リンに関しては数倍高い。